

● 今後の方向性(案)

● 今後の方向性(案)

■ 強み、課題、方向性について

強み

市民と行政の協働のまちづくり
 地区まちづくり団体による地域
 特性を活かすまちづくり活動
 人口減少がわずか
 鉄道の利便性の高さ
 都心までの距離の近さ
 高速ICまでの距離の近さ
 北関東で有数の工業都市
 都市と田園が調和
 都市計画道路の高い整備率
 市街化区域内の都市公園の
 高いアクセス性
 優れた自然環境（渡良瀬遊水地等）
 小山駅周辺の再開発が進展中
 多くの土地区画整理事業が
 既に実施済
 地産地消・食育を推進
 農村の多面的機能維持・発揮
 活動力バー率が高い
 市街化区域の多くが
 浸水想定区域外で安全
 財政状況の高い健全性 等々

課題

多様化・複雑化する市民ニーズへの対応
 市民意見・意向の市政への反映
 人口減少の始まり
 日常生活サービスの利便性の低さ
 徒歩による生活利便性の低さ
 バスの利便性の低さ
 市街地の交通渋滞
 都市計画道路の長期未着手路線の存在
 市街化調整区域内の開発許可件数の多さ
 市街地の空家・未利用地の増加
 市街化区域の一部が洪水浸水想定区域内
 市民一人当たり公園面積の低さ
 農地面積の減少
 農家人口の減少による農村活力の低下
 農地や平地林の保全の必要性
 水と緑の保全・ネットワーク化の必要性
 まちづくりを通じてのSDGsへの対応

方向性

市民参画・協働

グリーンインフラの推進

まちのコンパクト・
プラス・ネットワーク化

公園緑地機能の
保全・強化および
農村環境の維持・保全

風土性調査結果の活用



今後の方向性(案)

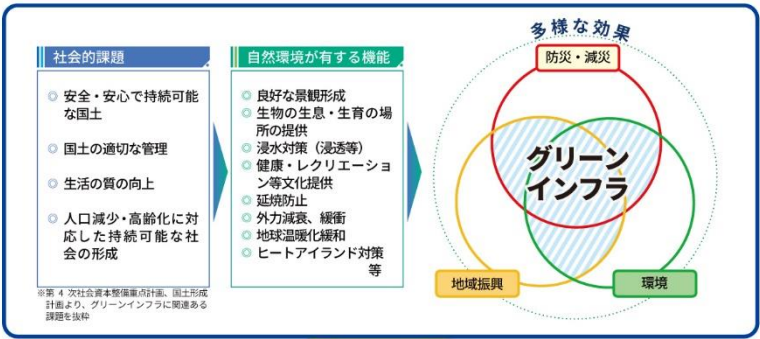
②グリーンインフラ※の推進

- 地球規模の気候危機やこれに伴う災害の激甚化から食料・水資源危機への懸念までに対応し、地域単位で自然環境の保全に取り組む必要があることが、国際社会で確認し合われている。このことから、地域の自然環境(地形・地質、植生等)が持つ防災・減災その他のさまざまな機能を生かす、「グリーンインフラ」の考え方を小山市の風土性に合わせて応用することを図る
- 具体的には、自然環境が有するさまざまな機能(生態、保健・衛生、熱環境調整、低炭素化、雨水の地下浸透促進による流出抑制、風水害への防備、火災時の延焼防止等)を有効活用して、防災・減災を図る
- グリーンインフラの推進も含んだ自然環境の保全を基礎として、持続可能なまちの風土形成を図る

※「グリーンインフラ」の定義(国土交通省): 「グリーンインフラ」とは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能(生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等)を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。



(出典: 横浜市)



○ 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

○ 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

(出典: 国土交通省)

③まちのコンパクト・プラス・ネットワーク化

- 人口減少社会においても、人の身の丈に合い人間的でもある、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進め、持続可能な都市を目指す
- 市街地（主に市街化区域）は、まちなかを始めとして、ウォーカブルシティの実現と歩行者・自転車道の回遊性ネットワークを形成していく
- 郊外部（主に市街化調整区域）は、農業の担い手確保や事業継承を支える住環境の整備および都市の生活サービス機能へのアクセス充実を図る
- エネルギー消費をできるだけ抑えた、まちの中心拠点と地域の拠点をつなぐ公共交通ネットワークの利便性向上を目指す
- 公共インフラは、既存ストックを有効活用し、必要に応じて新設整備を図る
- 特に、ウォーカブルシティ実現は、市の努力と共に沿道で暮らし働く人びとの参画・協働もあって可能となるため、アイデアを出し合い実践し合うための話し合いの機会を設ける



まちなかにはいろいろなお店があって出かけるのが楽しい。休日はお年寄りから家族連れまでたくさんの人でにぎわっている。

（小山市立地適正化計画より引用）



バスを使えば郵便局や最寄りの駅まで行きやすい。最近まで、バス利用者も増えてきたようで、減便の心配はなさそうだ。

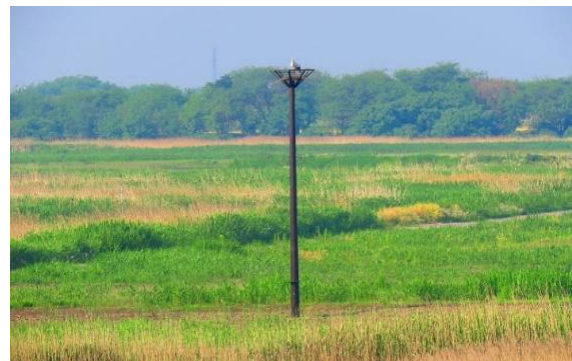
（小山市立地適正化計画より引用）

④公園緑地機能の保全・強化および農村環境の維持・保全

- 公園緑地は、②にある「グリーンインフラの推進」「自然環境の保全」を基本として、低炭素化や生物多様性に配慮したまちづくりを目指すために、保全と整備を図る
- 市民のニーズに即して既存公園の再整備、適切な再配置を目指す
- 風土性調査の結果を踏まえて、市内の緑地、水辺の現況を把握、評価し、適切な緑の保全と緑化の推進を目指す
- 農業・農村は食料生産のほか、水源の涵養や自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能を有しており、農地を保全すべき生産基盤・緑として位置づけ、豊かな田園環境の保全を推進する
- 農地の保全を推進する一方で、都市と農村の交流や農作物の地産地消の推進を図るための規制緩和等（市民農園、農家レストラン、公共施設の利活用など）を検討する
- ③「ウォークブルシティ」「歩行者・自転車道の回遊性ネットワーク」は、②「グリーンインフラの推進」「自然環境の保全」を基本に、道路の緑量をできるだけ増やし、可能な場所では公園緑地や民有の緑地、農地、河川、水路・ため池などと結びつけた上に、実現していく
- 上記の市と市民の協力によって形成される公園緑地のネットワーク（公園緑地系統、公園緑地帯、または生態回廊）を、小山市の都市部と田園部を生態的につなぐ、「田園環境都市 小山」の緑と水の骨格として位置づけ、市民に対して情報発信し、市民と共有し、保全・整備に努めていく



思川アプローチ広場から望む
「思川緑地」



渡良瀬遊水地第2調節池
に定住するコウノトリ
「ひかる」



小さな自慢が
山ほどあります